丸山湿原群保全の会会報

（第 150 号）

発行日：2020 年（R2）1 月 15 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住（いますみ））
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

新年を迎えました。今日で松が明けますから新年のご挨拶は無し。**江戸時代までは（慣習としては戦前？まで）正月に一斉に歳をとっていたとのこと。お正月のお祝いは一種のバースデーパーティーだったという話もあります。**「成人の日」も一斉に祝いますね。どちらも旧暦を基準に考えられていたようです。**旧暦では３年に１度「閏月」が入ります。**この月に生まれた人はややこしい。だから正月にまとめて、という説もあるそうな。以前（1999 年まで）の「成人の日＝成人式」は１月 15 日。新年最初の満月の日に「元服式」をしていたことからとか。小正月とも。

グレゴリオ暦（新暦）ではどちらも関係ありませんね。でも今年は閏年（オリンピックイヤー）。２月 29 日があります。この日が誕生日の人は４年に１度しか祝ってもらえない？これはつらい。しかし「私は４年に１度しか歳をとりませんので」という人もいるかも。身近に２月 29 日生まれの人はいませんが（気づかない？）どうなんでしょうか。29 日は無くても歳はとっていきますよね。とまた馬鹿なことを言ってますが、今年もよろしくお願いいたします。挨拶しとるがな！

（今住　１月 14 日作成）

定期活動★2019 年 12 月 22 日（日）第３湿原西側ササ刈り作業　午後茶話会　８名で活動

いよいよ湿原内の刈り取りの始まりです。秋の花も種を落として枯れ草に。ところがヌマガヤ（沼茅）は茎を高く伸ばしそのまま倒れ込んでいきます。線維が長くまた固いため、湿原をマット状に覆ってしまいます。株もどんどん太り占有していきます。腐った茎は流れにくく富栄養化に。以前にも書きましたが、ヌマガヤの占有は湿原末期を示すともいわれています。しかし決してヌマガヤを悪者にしているわけではありませんのでお間違いなく。湿原を構成する大事な植物です。ただ独り占めはね･･･

刈り取り前　木道から

刈り取り後　西奥の木道がはっきりと

今回の第３湿原（最初の湿原）木道西側はやや角度のきつい斜面の湿原です。両脇は乾燥化（元は山？）してササの繁茂が見られます。この部分も継続的に刈り取ることで、ササも矮小化しつつあります。そこにはホソバリンドウやセンブリが多く見られるようになりました。水の多い中央部には驚くほどウメバチソウが観察できます。

『今回は西側をすべて刈り取ること。午後は茶話会。これを目標に頑張ります』？「これ」は何を指しているのか？日本語は難しい。「これは何を指し示すか答えなさい」テストみたいや！答えは･･･

刈り取り前の木道入口

「スーパーこがる」ちゃん

「スーパーこがる」ちゃんで処理

手作業と刈り払い機両方で。８人もいるので楽勝です。そこで**新規購入したチェンソーも活躍。その名も「スーパーこがる」トップハンドルの軽量チェンソーです。**女性でも楽々？小径木の木から枝打ちまで楽にこなします。安全面には十分気をつけて。チェンソー作業は西奥の木道へ向かう道の邪魔になる木本の除去を。湿原内の刈り取り、周辺の手作業。順調に作業は進みました。

その中にも発見が！手作業は効率は悪いですがいろんなものが見つかります。**ウスタビガ（薄手火蛾）の繭**の抜け殻、**オオゴキブリ（大蜚蠊＝油虫）、オオカマキリ（大螳螂）の卵塊**などなど。他にも見えないところに越冬中の昆虫や生き物がたくさんいるはずです。機械だけで作業しているとなかなか見えないものです。仕事ではないのですから楽しむところは楽しんで活動しましょう。もちろん機械マニアの活動も大助かりです。今のところマニアと言える人はいないようですが。時々チェンソーマニアが見受けられますが、この類の人は要注意です。とにかく「伐りたい人」です。しかし慎重で協力的な人はウエルカムです。

ウスタビガ繭抜け殻

オオゴキブリ　お嫌いですか？

作業後、場所を「西谷夢プラザ」に移し茶話会（納会）となりました。**茶話会に駆け付けた参加者を含め、次年度の「ガイド研修ツアー」についてや、今後の活動の方向性など意見交換を行いました。**

定期活動★2020 年 1 月 11 日（土）基礎調査　第３湿原東側ササ刈り作業　７名で活動

新年最初の活動です。基礎調査観察日ですが、湿原内の刈り取り作業が春に間に合いません。今回は第３湿原木道東側を。**前回より広い面積ですが人数は少ない。焦りながらも第３湿原は今日で終了予定。不退転の覚悟です。たいそうな･･･「あかんかったらまた今度」程度です。**

もちろん基礎調査も同時進行。人手が足りないので素早く測定し作業に合流。素晴らしい。

目的	市内	市外
丸山	18	15
ハイキング	13	12
その他	23	29

来場者数　計 110 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：00	6.1℃		
第３湿原	10：25	【5.9℃】	34.2μS/cm	7.2
視点場	10：31	10.2℃	29.5μS/cm	7.2
第１湿原	10：39	【5.1℃】	36.0μS/cm	6.9
第２湿原	10：55	【4.8℃】	41.1μS/cm	6.9

作業紹介の前にチョウを。この時期の画像はやはり昔のお弁当のよう。茶色が中心。あまりにも寂しいのでチョウを紹介します。バックナンバー100 号でも紹介していますが、**越冬するチョウは意外に多いようです。今回、湿原刈り取り途中に見つけたチョウ２種。正確には越冬中だったのか越冬しようとしている途中なのかは不明ですが、テングチョウ（天狗蝶）とキタキチョウ（北黄蝶）を。**（表現がややこしいねん）**タテハチョウの仲間やシジミチョウの仲間も多く越冬します。どこで？それは･･･私には見つけられない。先日の大風でも雨でもボロボロになっていないところ**

越冬キタキチョウ

を見ると雨風をしのげるところなんでしょうね。誰か教えてください。今回の２種は春のような陽気にほだされて出てきたのか、はたまた草刈りで追い出されたのかは不明。しかし「昆虫すごいぜ！」。どこかで聞いたフレーズです。トンボにも越冬するものがいます。これも紹介済み。ホソミオツネントンボとオツネントンボ。これも越冬中の個体は見つけられない。大捜索隊でも出しましょか？

越冬テングチョウ

この日も西谷は氷が張っていました。暖冬ですが･･･。例年だと厳寒期に－10℃近くまで下がります。虫の体は凍らない？やっぱり「昆虫すごいぜ！」水分が少ないからかな？安易な発想ごめんなさい。

では作業です。先日の雨のせいか、第３湿原としてはかなりの水が滲み出ていました。踏みしめるとオオミズゴケの中から水が沸き上がります。刈り払い機２台、あとは手作業、前回と同じ段取りです。しかし面積が約 2 倍？（多少の誇張あり）人数は少ない。測定にも行っている。「今日の作業で第 3 湿原は完遂する！」と自信のない決意のもと頑張りました。傾斜面は西側より緩やか。刈り払いの作業がはかどります。例の秘儀「モヒカン刈り取り」で。あとでまとめやすく効率的です。しまいにモヒカン族に怒られ斧が飛んできそうですが。差別的な意味はありませんのでご了承を。「ラスト・オブ・モヒカン」という映画がありましたね。誇り高き民族。また、話が飛びました。作業がはかどるといっても運び出しはやはりきつい。途中ビスケットタイムをいれて湿原を眺めると…「なんと素晴らしい仕事ぶりでしょう！」と自画自賛。この感じがないと続けられませんよね。「えらいわ～私たち！」ビスケットの次はせんべい・あめちゃんと続きます。少しの休憩ですがやはり寒中。すぐに体が冷えてきました。汗もかいているからでしょう。しかし、休憩するとなかなかお尻が上がらない。「えい！えい！」と自分を奮い立たせ再開。（走れメロスか？）ほとんど刈り取りは終了している。刈り払い機 1 台のガソリンも尽きた。残りは俺に任せろ！後は運び出しに専念。少し予定時間をオーバーしましたが完了！天気もよく気持ちの良い作業となりました。暖冬は気持ち悪いけど･･･次回からは本丸、第 1 湿原。「北摂里山愛す会」との協働も予定しています。（未発表か？先走り？）よろしくお

第 3 湿原　南から刈り取り前

北側（下流）から見たモヒカン刈り

作業後　北側（下流）から　きれいわ～

クッキータイム

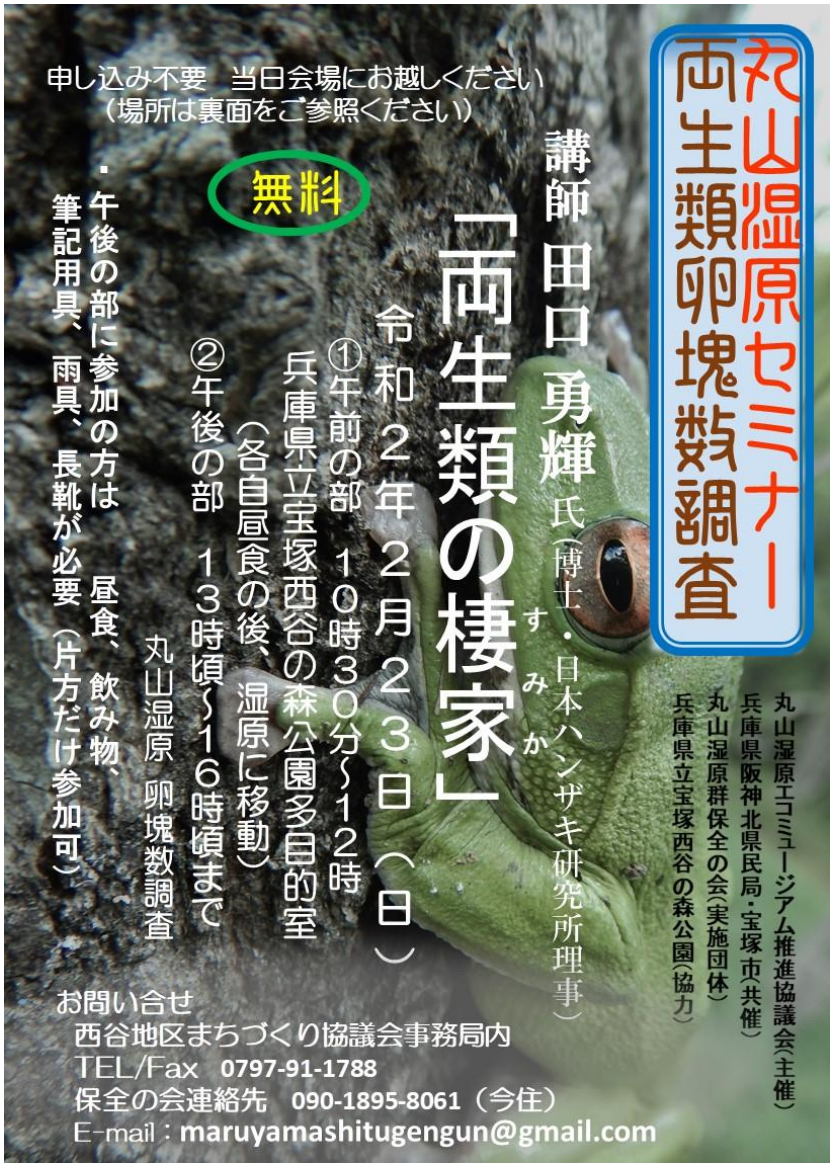
最後に振り返り　木道両脇　きれいわ～

願いいたします。第３・第１湿原は両生類卵塊数調査の対象湿原です。２月23日（日）に実施。詳細は後ほど。それまでに（いや春までに）刈り取らなくては。セトウチサンショウウオ・アカガエル類の産卵のためにも。両生類にとって湿原が明るすぎるのもどないやねん？（卵・成体ともに隠れられない）という議論もありますが刈り取ります。

別の心配は暖冬。動植物は一定の寒さを経験しないと繁殖できなかったり遅れたりすることがあるそうです。作物ではイチゴが有名。種（たね）の眠りが深くなり休眠打破できず発芽しにくいものも。桜でもそんなことがあったように思います。寒さの程度がどれほど必要なのかは種によって違うようですが、動物にもあるのでしょうか？冬眠の途中に目覚め死んでしまうとか、オスとメスのペアリング時期がずれてしまうとか。あくまでも想像です･･･。寒いときは寒くなってほしいものです。寒がり屋さんには気の毒ですが。夏も然り。両方極端になっているといわれています。どうなる地球君。

両生類セミナー・卵塊数調査予告　★2月23日（日）兵庫県立「宝塚西谷の森公園」「丸山湿原」

毎年恒例の両生類セミナーと両生類卵塊数調査を実施します。講師はお馴染み田口勇輝さん（博士・日本ハンザキ研究所理事）。



テーマは「両生類の棲家」と題し、意外と知られていない産卵期以外の生活圏（ハビタット）についてお話していただく予定になっています。

オオサンショウウオのスペシャリスト。その話もたっぷり？

昨年、カスミサンショウウオがＤＮＡ調査の結果、９種類に細分された話も衝撃的でした。今回も何かあるかも。

しかし基本は「棲家」です。よろしくお願いします。誰に言ってんねんやろ？

１月18日（土）16：00から４チャンネル（MBS）「命をつなぐ動物園、もう一つの誓い」に勤務先の安佐動物公園職員として登場されるそうです。ぜひご覧ください。

午後は丸山湿原で卵塊数調査。もちろん田口さん同行。昨年は体調絶不調の中お付き合い願いました。今年はスペック高いで～！ぜひご参加ください。

左掲載の画像はモリアオガエル（森青蛙）♀です。通称セクシーモーリーちゃん！この子の棲家はどこよ？

この子は４月末？まで冬眠中　春（初夏？）まで待って！

次回活動日　１月26日（日）協働？　２月８日（土）23日（日）セミナー卵塊数調査　３月14日（土）